かいづか文化財だより

テンプス TEMPUS

2020年（令和２年）71号

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理

安永４（1775）年の修復時に作られた**棟札**（表面）

工事用の素屋根に覆われた国宝孝恩寺観音堂

「大永七三月十六ち さかい」（室町時代／1527年）の年月日が刻まれた**丸瓦**

もくじ

つげさんのルーツ 様々な「和泉櫛」
国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理　その１
千石堀城跡の発掘調査　その４
地域史『貝塚市の70年』を読む会
東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ②　／　水間街道沿いの道しるべ　その８
文化財講座・セミナー・展示

つげさんのルーツ　様々な「和泉櫛」

「つげ櫛」の名前でも知られる「和泉櫛」は、本市を代表する伝統工芸で、本市のイメージキャラクター「つげさん」（右イラスト）は、この「つげ櫛」、「和泉櫛」をモチーフにつくられました。

前号で紹介した和泉櫛発祥の地とされる貝塚市澤にある櫛の神さま「八品神社」の記事に引き続き、今号では３月７日（土）から４月６日（月）にかけて開催した（国の緊急事態宣言による市民図書館の臨時休館のため４月８日（水）～19日（日）開催中止）令和元年度郷土資料展示室特別展「貝塚市の伝統工芸　和泉櫛ヒストリー～つげさんのルーツを訪ねて～」で展示した資料の紹介もあわせ、種類が豊富な和泉櫛の中から代表的な種類の櫛を紹介します。

伝統的な和泉櫛

形態から見た櫛は、髪飾りとして使われる縦に長い**「竪櫛」**（たてぐし）と髪をとくために使われる横に長い**「横櫛」**（よこぐし）の２つに分けられます。

和泉櫛の生産は、伝承では古墳時代末期、記録では平安時代後期11世紀まで遡りますが、日本における女性のヘアスタイルは、まっすぐに垂らした垂髪（すいはつ）が中心であったため、古くから生産されてきた伝統的な和泉櫛の多くは髪をとくための横櫛でした。市内の発掘調査では、澤の澱池（とどのいけ）遺跡と王子の王子遺跡で鎌倉時代13世紀代の横櫛の木櫛片【写真１】が見つかっており、中世においても和泉櫛の生産は横櫛が中心であったことがわかります。

写真１　澱池遺跡（右３点）と王子遺跡（左）から見つかった横櫛の木櫛片

日本髪の流行と様々な和泉櫛

江戸時代に入ると、女性のヘアスタイルは髪を結い上げる「日本髪」が主流となりました。日本髪は、髪全体を鬢（びん）、髱（たぼ）、前髪、髷（まげ）の４つに分け、中心の髷に結い上げる髪形です【写真２】。

この日本髪を結うために、用途に合わせて様々な形の櫛が誕生し、和泉櫛も様々な種類のものが生産されました。

近代のものですが、貝塚の住民が嫁入り道具として持参した和泉櫛の一式【写真３】には、横櫛以外の様々な形の櫛が納められています。これらの櫛は日本髪を結うための代表的な櫛で、その用途や形状を紹介します。

写真２　日本髪の各部の名称
紙本著色　妙安禅尼像　願泉寺蔵

①足形（あしがた）　日本髪を結う際に細部を整えるために使われた櫛。長い柄に対して斜めに櫛の部分が付き、櫛には短い歯が入っており、貝塚ではナギナタと呼ばれます。
②鬢出し（びんだし）　日本髪を結う際に髪の左右を膨らませるために使われた櫛。足形に比べて柄が短く、櫛の部分が長方形で歯が長く、貝塚ではフカバと呼ばれます。
③～⑤筋立（すじたて）　髪の毛筋を整えるために使われた櫛。長い柄の先に小さな櫛が付いたもので、小櫛の部分が二等辺三角形に近い形のものはシナガワ（③・④）、丸みを帯びた形のものはハマグリ（⑤）と呼ばれます。

写真３　和泉櫛一式（嫁入り道具）　摂河泉文庫蔵

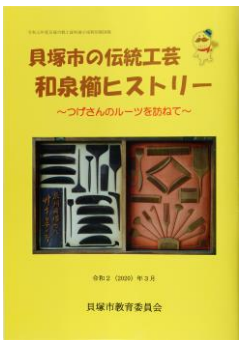
⑥髪上げ（かみあげ）　日本髪を結う際に髪を持ち上げるために使われた櫛。先端が鎌状になっているため、貝塚ではカマと呼ばれます。
⑦簪（かんざし）　櫛ではなく髪飾りとして使われた装身具。このような直線状のものはイッポンと呼ばれます。

このように日本髪を結うために様々な形の櫛が作られた和泉櫛は、紹介した筋立（③～⑤）のように歯や櫛の形状が異なるものが作られたことで、その種類は次第に増えていきました。さらに近代になると、洋髪の結い方に合わせた櫛も作られ、その種類はより豊富なものとなりました。

つげさんのモチーフとなっている櫛は丸い形の横櫛ですが、ルーツにあたる和泉櫛は今回その一部を紹介したように様々な種類があります。こうした様々な和泉櫛を知っていただき、本市の伝統工芸「和泉櫛」の奥深さを感じていただくことで、新しい「和泉櫛」のシンボルである「つげさん」とともに、「和泉櫛」が末永く親しみのある存在として継承されていくことを願ってやみません。

展示解説図録販売のお知らせ

令和元年度郷土資料展示室特別展「貝塚市の伝統工芸　和泉櫛ヒストリー～つげさんのルーツを訪ねて～」の開催にあわせて、展示解説図録を刊行しました。定価３００円で、社会教育課（貝塚市教育庁舎１階）および社会教育課郷土資料室（市民図書館２階）にて販売しています。和泉櫛について、より詳しくお知りになりたい方はぜひお買い求めください。



国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その１

令和元年９月に着手された国宝孝恩寺観音堂保存修理事業は、令和４年１月の完了予定に向けて作業が着々と進められています。前号での概要の説明に引き続き、今後修理の進捗状況についてお伝えするとともに、調査により明らかになった事柄を紹介していきます。

まず、着手から２カ月程度は、観音堂の設計図面作成や工事業者の選定が進められ、その後、修理工事を進めるに当たって、樹木の仮移植、観音堂内部の仏像・仏具の移動などが年内に実施されました。

令和２年に入ると、観音堂の周囲に足場が設けられ、素屋根（すやね）が掛けられました**【写真１・表紙写真右上】**。雨風がしのげるようになると、外陣（げじん）の床板撤去や瓦の取り外しが進められました。今回が大正５（1916）年の大修理以来約100年振りとなる、令和の大修理とあって、傷んだ瓦は新しいものに取り替えますが、古くても再利用できる瓦は、コケや土をきれいに洗い落とし**【写真２】**、新しく焼かれる瓦とともに葺き直される予定です。

瓦を取り外した後、瓦の下に敷かれた野地板（のじいた）をめくっていくと、その下から垂木（たるき）が顔をのぞかせました**【写真３】**。あわせて壁も取り除き、柱などの骨組みが露わになってきました。

調査の過程で、「大永七三月十六ち　さかい」と刻まれた約500年前、室町時代、大永７（1527）年３月16日の日付が入った丸瓦**【表紙写真右下】**が確認されています。また、江戸時代中期、安永４（1775）年に行われた修理の際、作成された棟札（むなふだ）**【表紙写真左】**も確認されました。安永の修理は「大工棟梁（とうりょう）岸和田百姓町河岸伊兵衛」の手によるもので、庄屋・年寄らの名前や「木積村中」の文字も見られることから、木積村の人々の寄進（きしん）によって、観音堂の修理が進められたことがわかっています。

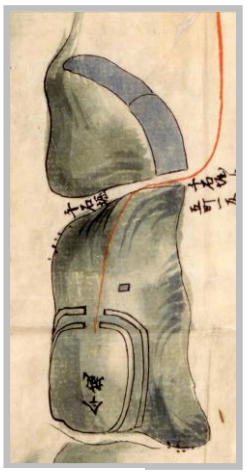
写真１　観音堂に設けられた足場と素屋根の骨組み（令和２年１月21日撮影）

写真２　瓦にこびりついたコケや汚れをきれいに取り除く作業（令和２年３月23日撮影）

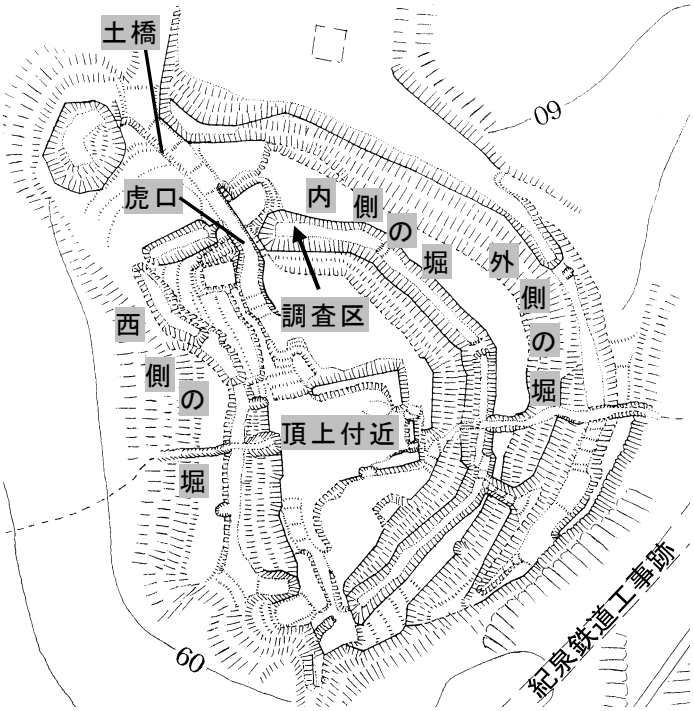
写真３　屋根瓦の下にある野地板とそれをめくると現れた垂木（令和２年３月16日撮影）

保存修理事業の進捗状況については、市役所本庁舎ロビーで定期的に内容を更新して紹介しています。お近くへお越しの際は、ご覧ください。

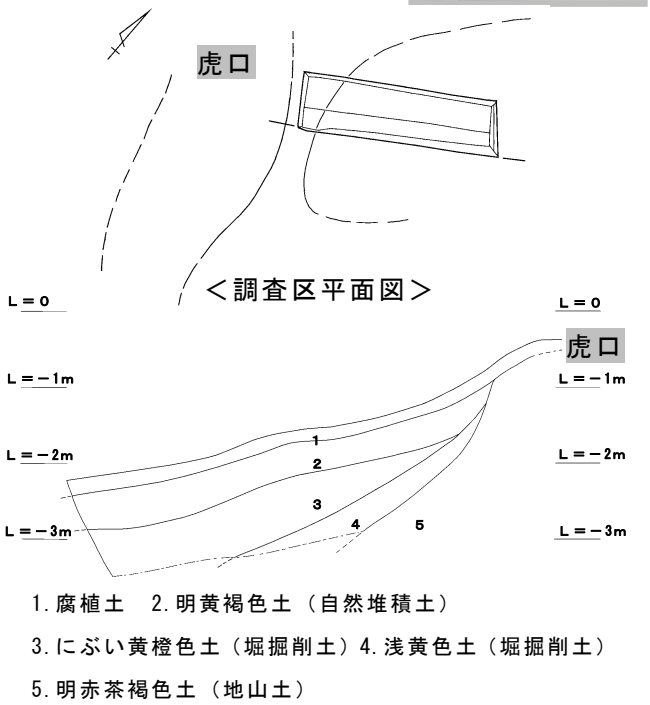
千石堀城跡の発掘調査 その４



根来衆の出城として造られた千石堀城（本市名越ほか、「せんごくの杜」の一部）は、「根来出城配置図」【写真右】（江戸時代製作、岸和田市教育委員会蔵）に二重の堀が描かれ「今城」と記されています。平成25年度より実施している７年間、計23カ所の調査では、外側の堀の北部分、城の出入口である虎口（こぐち）、西側の堀、頂上付近、東側に二重にめぐる堀の状況、土橋付近を確認する調査を実施してきました（テンプス53号、55号、56号、65号掲載）。



＜千石堀城跡縄張り図＞



＜堀の地層断面図＞

虎口の東側から見た調査区

堀の地層断面

堀の掘削土から出土した丸瓦

今回の調査では、虎口の東側、二重にめぐる堀の内側の堀部分に調査区を設定、調査を行いました。その結果、堀は虎口の高さから３ｍ以上の深さまで掘削されていることが明らかになりました。腐植土層の下の第２層は自然の堆積層で、第３層、第４層は堀を埋め戻した地層と考えられます。地層の状況から一度に埋め戻したと考えられ、これまでの内側の堀の調査結果と同様に短期間で掘削されたもので、落城後に一度に埋め戻しが行われた状況が明らかになりました。第３・４層からは、中世以前の瓦片が少量出土しています。

中世以前の瓦片が出土したことを考え合わせると、これまでの発掘調査から想定していた通り、千石堀城は一時的に造られた城郭で、中世以前にこの地にあった寺院的な施設に手を加えて城郭としたものである可能性がより強まりました。

地域史『貝塚市の 70 年』を読む会

平成25年３月に刊行した地域史『貝塚市の70年』は、市制施行70年を記念して、政治・経済・文化など多岐にわたって貝塚市の近現代史をまとめたものです。刊行にあたっては、関西学院大学文学部教授の高岡裕之さんを編纂（へんさん）委員長に迎え、近畿地方の大学教授・研究者らの手により執筆されました。

地域史『貝塚市の70年』を広く市民に知っていただきたいという思いから、近現代の地域史の学習の場としてふさわしい貝塚市歴史展示館を会場に、平成28年10月から「地域史『貝塚市の70年』を読む会」を講座形式で開催してきました。そのスタートとなる秋の記念講演会は、高岡委員長を講師に、「貝塚市の歴史の面白さ―『貝塚市の70年』編纂の経験から―」と題し、本市誕生の成り立ち、水間鉄道の開通にまつわる話など、新たな貝塚の歴史像に触れる機会となりました**【写真１】**。

写真１　平成28年秋の記念講演会
（講師は高岡裕之さん）

この初回を皮切りに、春・秋には記念講演会として、外部から講師を招き、お話をいただきました**【写真２・表】**。それ以外は社会教育課職員が担当し、毎月１回のペースで開催してきました。

写真２　平成29年秋の記念講演会
（講師は今井小の実さん）

参加者の皆様からは「地元の知らなかった歴史を知ることができた」、「若かった頃の記憶を振り返る機会になった」との声が寄せられたほか、参加された方の体験談を語り合う場として、交流を継続してきました。

こうして約４年を経て、第41回の「平成期の貝塚市政」（現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期しています）を最後に終了いたします。

本市の近現代史については、今後もかいづか歴史文化セミナーなどを通じて、市民の皆様に触れていただく機会をご用意いたします。どうぞご期待ください。

年	季節	講師	所属（当時）	タイトル
平成28	秋	高岡裕之さん	関西学院大学教授	貝塚市の歴史の面白さ ―『貝塚市の70年』編纂の経験から―
平成29	春	岡田光代さん	大阪府立大学准教授	泉州における綿業の近代化
	秋	今井小の実さん	関西学院大学教授	貝塚市における繊維工業の軌跡と女性労働者 ―『貝塚市の70年』編纂の調査を通して―
平成30	春	村田和子さん	和歌山大学教授	貝塚公民館の歴史
	秋	高岡裕之さん	関西学院大学教授	はばたく貝塚市～関空をめぐる地域開発を中心に～
平成31 令和元	春	上岡兼千代さん	貝塚市文化財保護審議会会長	高度経済成長下の貝塚市政
	秋	寺田伸司さん	貝塚市陸上競技協会会長	貝塚市の陸上競技

表　地域史『貝塚市の70年』を読む会 記念講演会一覧

東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ②

昭和39（1964）年に実施された前回の聖火リレーは、９月９日から開会式前日の10月９日まで、日本全国を４つのコースに分けてリレーしました。

市内の聖火リレーは、国内の第２コースの第28区と第29区にあたり、９月26日の正午過ぎに当時の国道26号を聖火が通過しました（写真１）。当時の本市広報によると、第28区は津田北町の帝国産業株式会社津田工場前からの1.7km、第29区は脇浜１丁目の西砿油店前から泉佐野市の泉佐野市立北中小学校前までの２kmでした。市内２区の走者は正走者各１名、副走者各２名、随走者各20名の計46名でした。

写真１　1964 年の
市内での聖火リレー
副走者の後に随走者たちが続きます

貝塚市歴史展示館では、聖火リレーの紹介コーナーを設置するとともに、市内の中学生の代表による随走者たちに記念として配られた「オリンピック東京大会聖火リレー参加記念章」（写真２）も展示しています。

写真２　オリンピック東京大会
聖火リレー参加記念章
左：表面、右：裏面　個人蔵

新型コロナウイルス感染拡大の影響で東京2020オリンピック開催が延期されたことに伴い、令和２年４月15日に実施予定だった本市での聖火リレーも延期となりましたが、聖火リレー実施の際には、聖火ランナーを市全体で応援し東京2020大会を盛り上げていきましょう。

水間街道沿いの道しるべ　その８

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。今号では、水間に残る木積（こつみ）の道陸（どうろく）神社への里程標（りていひょう）を紹介します。

道陸神社里程標（水間）

水間の個人住宅の敷地内に建てられている道しるべで、足の神さまとして知られる道陸神社への距離を示したものです。

正面に「道陸神社　是（これ）ヨリ／二十五町」と刻まれ、目的地にあたる道陸神社が25町（約2.7km）先にあることを示しています。また、側面に「大正六年三月建立　脇浜　西出　藤吉／脇浜　濱出三次郎」と刻まれ、大正６（1917）年３月に、脇浜の西出藤吉と濱出三次郎によって建てられたものとわかります。約100年前の大正時代には、多くの人々が徒歩で水間街道を通って道陸神社に参詣していた様子をうかがえる道しるべです。

文化財講座・セミナー・展示

◆６月

郷土 **「貝塚市の指定文化財」展　第１期**＜開催中～６月28日（日）＞

地蔵堂にある国史跡丸山古墳出土の埴輪（はにわ）類や地蔵堂古墳群出土の須恵器（すえき）類を中心に、市の指定文化財を紹介します。

歴史 **企画展「東京オリンピックと貝塚」**＜開催中～８月31日（月）＞

1964年の東京オリンピックの関係資料を中心に、パネル展示では「東洋の魔女」ニチボー貝塚が猛練習に励んだ旧体育館と、新体育館を拠点に活躍している日本生命女子卓球部（日本生命レッドエルフ）について紹介します。

◆７月

郷土 **「貝塚市の指定文化財」展　第２期**＜７月11日（土）～９月６日（日）＞

半田にあった古代寺院秦廃寺（はたはいじ）から見つかった瓦類や、市役所周辺の加治・神前・畠中遺跡から見つかった出土品を中心に、市の指定文化財を紹介します。

◆８月

郷土 **子ども体験企画「拓本（たくほん）講座」**

瓦や土器の文字や模様を写し取る拓本について、墨と紙を使う体験講座。

日時：８月23日（日）午後１時～３時

会場：貝塚市民図書館２階視聴覚室
対象：小学４年生～中学生
定員：15名（定員になり次第締切）※参加費は無料

※ 郷土 ：郷土資料室・郷土資料展示室　歴史 ：歴史展示館

講座の申込先　住所、氏名、電話番号を、電話・ファックス・Ｅメールのいずれかで、下記まで事前にお申込ください。

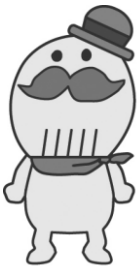
597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館２階）
社会教育課郷土資料室　ＴＥＬ 072（433）7205 ／ ＦＡＸ 072（433）7053
Ｅメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上記イベントは日程変更または中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。

かいづか文化財だよりテンプス71号

KAIZUKA

令和2年6月1日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585　貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126　Fax(072)433-7053
Email：shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージキャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。